

CASBEE-建築(新築)2014年版
 京都奉製株式会社 総工務新築工事

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版
 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								2.4
Q1 室内環境			0.32					2.7
1 音環境		1.4	0.15					1.4
1.1 騒音		1.0	0.40					
1.2 遮音		2.2	0.40					
1 開口部遮音性能		3.0	0.60					
2 界壁遮音性能		1.0	0.40					
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音		1.0	0.20					
2 温熱環境		2.0	0.35					2.0
2.1 室温制御		1.8	0.50					
1 室温		2.0	0.38					
2 外皮性能		3.0	0.25					
3 ゾーン別制御性		1.0	0.38					
2.2 湿度制御		1.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	0.30					
3 光・視環境		2.7	0.25					2.7
3.1 昼光利用		4.2	0.30					
1 昼光率	食堂:2.52%	5.0	0.60					
2 方位別開口								
3 昼光利用設備		3.0	0.40					
3.2 グレア対策		1.0	0.30					
1 昼光制御		1.0	1.00					
3.3 照度		3.0	0.15					
3.4 照明制御		3.0	0.25					
4 空気質環境		4.6	0.25					4.6
4.1 発生源対策		5.0	0.50					
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆建材を全面的に使用、ホルムアルデヒド以外のVOCにも配慮	5.0	1.00					
4.2 換気		3.6	0.30					
1 換気量		3.0	0.33					
2 自然換気性能	2階:1/15以上	5.0	0.33					
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33					
4.3 運用管理		5.0	0.20					
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御	全館禁煙	5.0	1.00					
Q2 サービス性能			0.30					2.9
1 機能性		2.6	0.40					2.6
1.1 機能性・使いやすさ		2.6	0.40					
1 広さ・収納性		3.0	0.33					
2 高度情報通信設備対応		1.0	0.33					
3 バリアフリー計画	円滑化基準を満たす	4.0	0.33					
1.2 心理性・快適性		2.6	0.30					
1 広さ感・景観		3.0	0.33					
2 リフレッシュスペース	休憩室及び給湯室を計画	4.0	0.33					
3 内装計画		1.0	0.33					
1.3 維持管理		2.5	0.30					
1 維持管理に配慮した設計		3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50					
2 耐用性・信頼性		3.2	0.30					3.2
2.1 耐震・免震		3.0	0.50					
1 耐震性		3.0	0.80					
2 免震・制振性能		3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		4.0	0.30					
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ALCパネル+アクリルリシ:30年以上	5.0	0.20					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	ビニル床シート20年、ビニルクロス(下地共)20年、化粧石膏ボード30年	5.0	0.10					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	上位3種:給水(B)・汚水排水(B)・雑排水(B)、Eは不使用	5.0	0.20					
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20					

2.4 信頼性		2.6	0.20			
1 空調・換気設備		3.0	0.20			
2 給排水・衛生設備		2.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		2.0	0.20			
3 対応性・更新性		3.1	0.30			3.1
3.1 空間のゆとり		3.4	0.30			
1 階高のゆとり		3.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ	2階:壁長さ比率=0.18	4.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		3.0	0.30			
3.3 設備の更新性		3.0	0.40			
1 空調配管の更新性		3.0	0.20			
2 給排水管の更新性		3.0	0.20			
3 電気配線の更新性		3.0	0.10			
4 通信配線の更新性		3.0	0.10			
5 設備機器の更新性		3.0	0.20			
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
Q3 室外環境(敷地内)		-	0.38			1.7
1 生物環境の保全と創出		1.0	0.30			1.0
2 まちなみ・景観への配慮		2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30			2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性						3.2
LR1 エネルギー		-	0.40			3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.71	4.0	0.04			4.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.12			3.0
3 設備システムの高効率化	BEIm 非住宅 0.80 住宅(専有部)	4.0	0.60			4.0
集合住宅以外の評価(3a,3b)	LED照明や効率化設備を採用	4.0	1.00			
集合住宅の評価(3c)						
4 効率的運用		2.0	0.24			2.0
集合住宅以外の評価		2.0	1.00			
4.1 モニタリング		3.0	0.50			
4.2 運用管理体制		1.0	0.50			
集合住宅の評価						
4.1 モニタリング						
4.2 運用管理体制						
LR2 資源・マテリアル		-	0.30			2.9
1 水資源保護		3.4	0.20			3.4
1.1 節水	節水型水栓や節水型便器を積極的に採用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減		2.6	0.60			2.6
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10			
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	内装が乾式工法で分別容易	4.0	0.20			
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.7	0.20			3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避		4.0	0.70			
1 消火剤		-	-			
2 発泡剤(断熱材等)	発泡断熱材を使用していない	5.0	0.50			
3 冷媒		3.0	0.50			
LR3 敷地外環境		-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率が一般の86%	3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮		3.2	0.33			3.2
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制		2.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減		-	-			
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.33			
3 交通負荷抑制		2.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33			
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40			
1 騒音		3.0	1.00			
2 振動		-	-			
3 悪臭		-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40			
1 風害の抑制		3.0	0.70			
2 砂塵の抑制		-	-			
3 日照障害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制		3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			